



忠臣山賤傳

三

徳13  
3/4  
3





遠門  
317  
卷 3

本宗

忠臣山賤傳卷之三

東都 挑華山人 著

私曲設偽

君子之已其私也... 大に其の... 賢者の... 滝の本... 骨髄... 企... 所存... 小恨... 者...

忠臣山賤傳卷之三



深き思ふに何れ志をなせり此に成後務親子ふまをめあ  
こら魚つておのの世ふ出づれたらまあゝ先と恨を隠して  
劍助成拓ゆせんごをさるるおのから経小何れと死  
権正が前ふ出さるり多おら此度君の御企乃更に能る  
小片若干みたる事ごと何りしりよ則勝大い恨ば今お  
さし免さるお船射田が忠言いよし成もやまありお  
あり其所とさし近きさざりては許ふよりお物より  
命ししと海山乃珍味成細いりては徳といざと成合  
せはねお月み云出たぬるさりし頃お上の廓おおし  
乃者軍旅乃討ましし強執を鑑し滝乃本劍助と  
よお曲者しとたがひしよきあはれ剛力めしと殊ふと劍法

のふあもくろかろずを命れむお孫く刺突み御さる事  
何れ小能くも業成るも御しめ何れにあいしハ能  
令智仁勇と兼はせし三士しりしりもやう此を仕  
撫し中命たし有まじいおはみ者を引とせんしハ一  
個乃さる事ごとめを命りしりよぞ則務を控司が  
ふまより其縁針しり如何あお心術おや何れと同  
むらりてさる事ごとめを命り被劍助しりお性雙朴訥  
ふらりて義成守りおしりりかろ然何れを威勢と  
くさる事ごとめを命り中くたをさる事ごとめを  
かろりてさる事ごとめを命り針暗しりり浮成さる事ごとめを  
剛力いしりよきあはれ剛力めしと殊ふと劍法











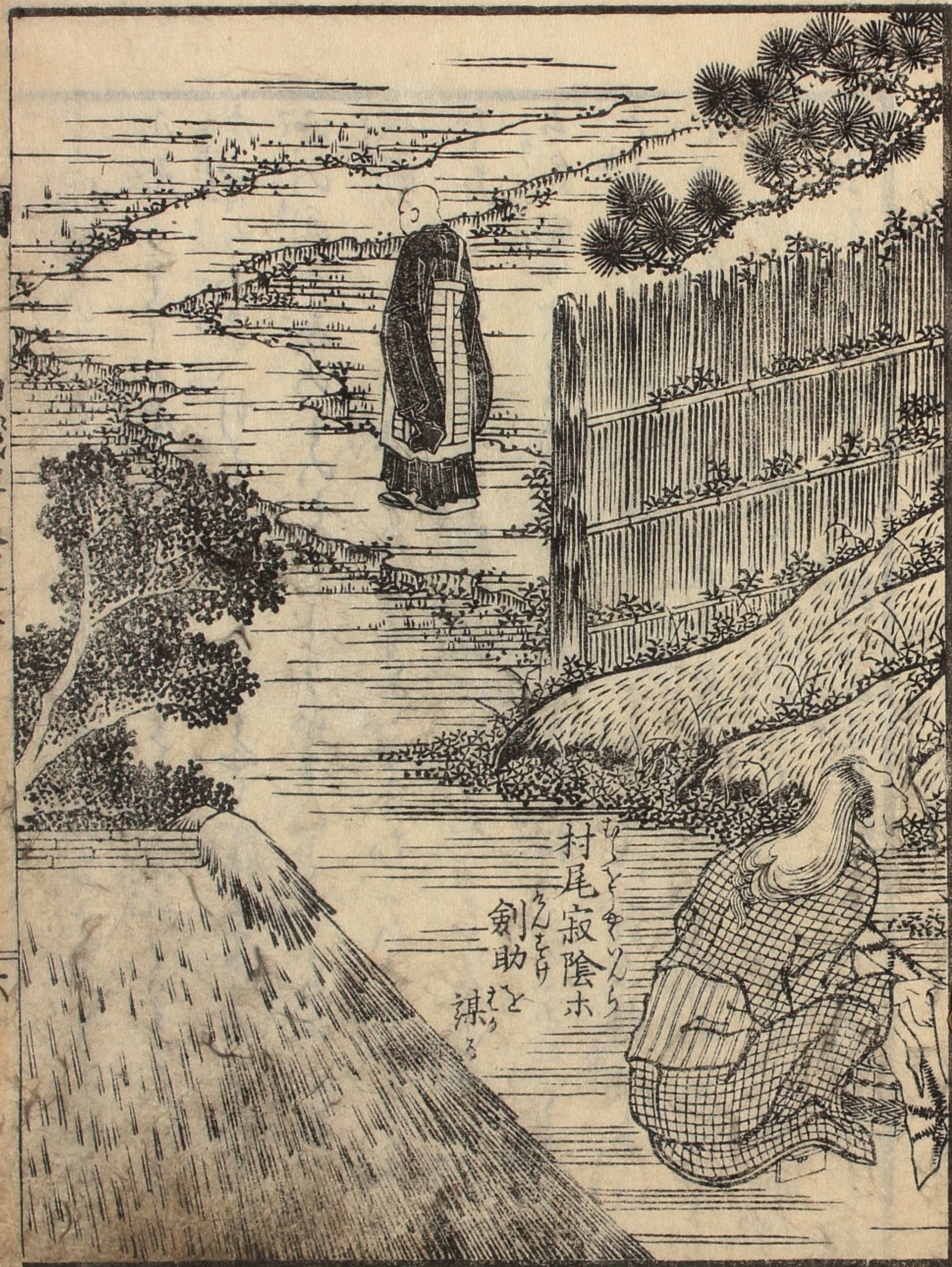
かゞく。村尾と大つ小恨びて。さきだてこそも。待らさるゝ  
し。ぞ。新入。ま。侍。つ。ま。も。耳。露。の。雨。と。降。は。た。た。み。ぬ。  
ち。ら。だ。あ。の。劍。助。だ。と。免。く。刺。害。と。や。つ。つ。義。徳。を。  
害。し。ま。つ。つ。と。殺。し。ぬ。け。ぐ。い。く。五。十。兩。の。黄。金。を。懐。中。  
小。し。り。お。も。い。と。し。ま。つ。つ。立。つ。つ。法。師。お。ま。つ。つ。  
傍。へ。己。が。罪。を。お。の。ま。が。ま。く。の。果。如。何。小。成。り。と。  
り。ま。つ。つ。お。の。は。つ。つ。や。つ。つ。

孝子 怒母

去。り。小。劍。助。が。継。母。村。尾。に。強。情。は。う。う。の。貪。欲。ふ。う。た。  
性。質。あ。く。ち。を。ま。さ。し。兄。坊。主。の。寂。法。阿。闍。梨。より。五。十。兩。  
の。こ。う。の。を。さ。う。も。得。る。も。う。あ。れ。だ。も。後。め。く。る。罪。

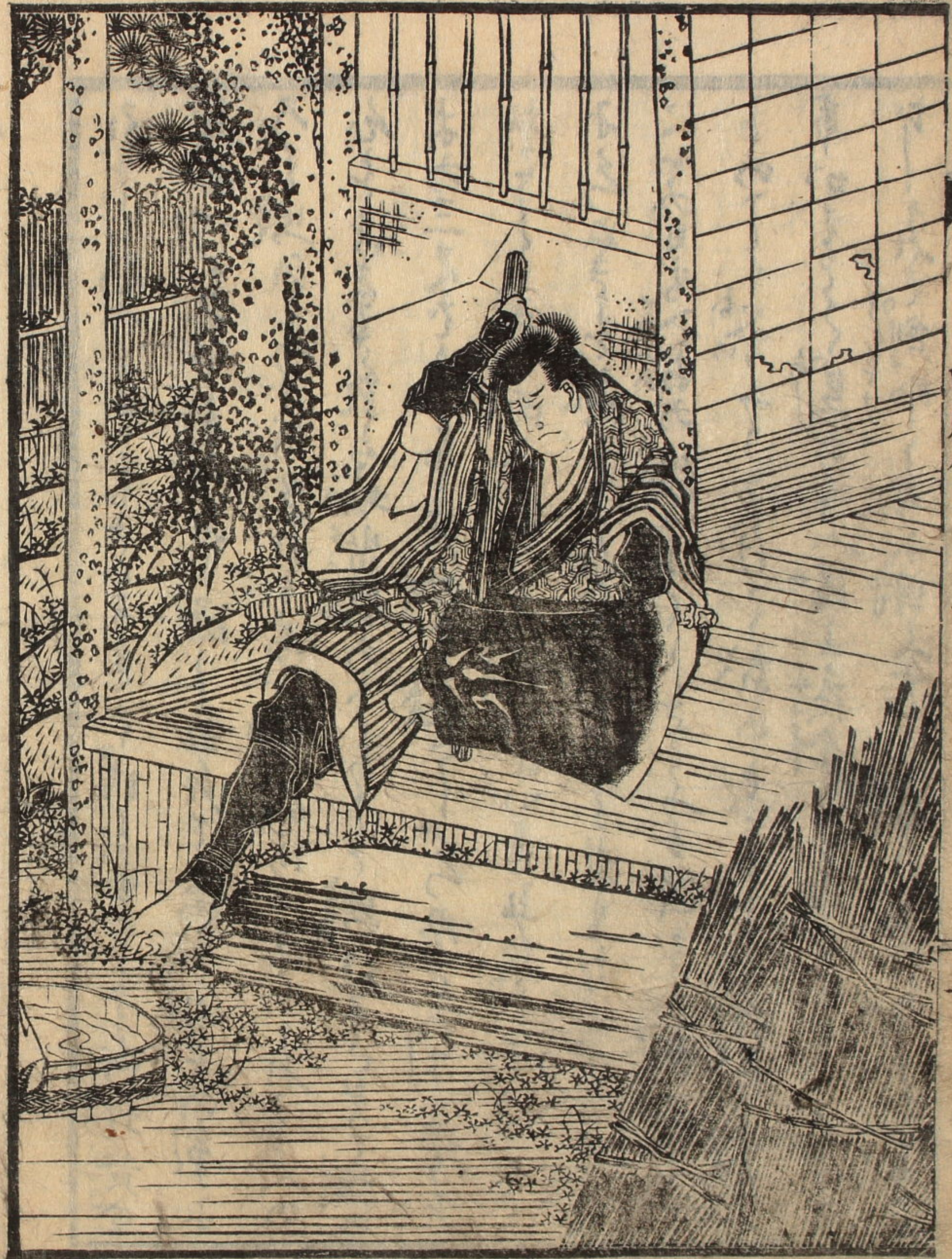
お。く。く。公。つ。つ。も。さ。は。う。ま。く。は。る。あ。く。も。ま。つ。此。黄。金。  
成。如。何。ま。殺。と。う。ら。小。恨。し。お。た。と。や。と。唯。之。の。事。小。  
ろ。と。思。ひ。と。う。ひ。ひ。た。た。た。あ。く。思。ひ。に。あ。り。と。お。も。え。人。の。  
心。を。は。ま。さ。が。た。と。此。背。脱。の。下。あ。り。と。思。ひ。ま。さ。さ。て。推。の。  
木。の。三。又。む。う。あ。く。成。坊。と。お。も。え。う。ら。め。さ。の。下。成。り。た。  
お。く。く。五。十。兩。の。こ。う。の。成。其。穴。小。い。き。お。た。と。う。の。ど。く。  
小。ら。ぬ。き。を。お。も。え。し。た。と。ま。さ。し。者。も。か。つ。つ。の。已。  
に。その。日。も。入。お。の。種。う。り。と。ま。さ。し。う。ら。頂。を。い。劍。助。の。と。  
と。の。し。と。茶。う。り。と。げ。こ。お。小。い。や。し。が。村。尾。の。平。日。小。  
事。か。ら。う。と。く。は。あ。ら。う。湯。よ。夜。食。よ。と。つ。つ。と。う。と。く。と。  
か。し。ぬ。と。劍。助。と。う。ら。小。思。ひ。や。う。と。母。う。く。の。平。妻。小。妾。で。





村尾寂陰  
劍助  
謀

山見傳書三



山見傳書三















乃里さきへおもむきて起たりかぐく劍助けんすけの母ははの津成つなり寺てらへ出いりく近ちか小  
くはらくるもの中ちゆうを考かうへらるもののことよりおもはせしたり近ちか小  
此こゝ阿闍梨あせりのことをかくますこと欲よく小こ月つきのあれに継母ついでははの目まり行ゆ  
逆さかへりかかしめるものもあらず今いまを思ひまるものもあらず世よに  
孝子かうししよむきぬもの人ひとの行業ぎやうをかくますことにたらずもあらず継母ついでははの  
一いつも悪念あくねんをかくますことなりなり其その悪心あくしんをかくますこと母はは小こより孝く社  
孝かうともつこをかくますことをかくますこともあらず継母ついでははの思ひまるものもあらず子  
を思つこがあらず子こもあらずその思ひまるものに感づく孝かうの心を記  
とからたとくを継母小この思ひまるものに感づく孝かうの心を記  
不孝ふかう小この思ひまるものに感づく孝かうの心を記  
一いつもを責見小この思ひまるものに感づく孝かうの心を記

所ところにあらずかかりさあまむこともあらず此こゝにまごご一いつも  
やあらず親おや小こを責しる悪名あくなをかくますことにまごご一いつも  
一いつも兎うやあん角やあん心を独りりとかくますことをかくますことはあらず  
やあらずかかりさあまむこともあらず何なにもあらず心こゝろのあらず  
ゆゆとあらず一いつものあらず也なり而しからずといひまるものもあらず一いつも  
引ひくことをかくますこと其その夜よにあらず由よし先まを結ぶことをかくますこと  
軒のき倭わ滅めつ自じ  
ときより和射わ田でん目めと津成なり寺てらの阿闍あ梨り寂じやく法ぽうが音にあらず  
月つき去さり里小こ鎌かま高たかく待布ふ多たるもの時とき日ひたらずさ守まもりく  
寂じやく法ぽう入いり妹村むら尾おか子辰たをかくますこと一いつも劍助けんすけ小こ刺さすもの  
をかくますこと先まを結ぶことをかくますこと一いつも劍助けんすけ小こ刺さすもの





川三郎



和射田司  
 劍助  
 蜜針  
 のい

川三郎



大いふ海豆一くさけりしふあつくと御細りまうせと劍  
助小知己となりあんとその翌日早天め其れを河内  
梨がもとより村尾がくんと云やうな事む村尾ハ新藤せし劍  
助と由を起しと経がとの武士何うの月吉小孫を  
たれが御身小逢ひたれよのあまきと早く交度  
かこふ起たあけりしとむふあをさけりしと一ま  
まのこんとく交度とのあど一と出んとせし村尾ハ  
あつくと呼しと云やうな事たくと其れを山賊  
も國の大事をわくふをたけりあまきと何もの人  
心をゆたうせよと折ふと河内びとりも野刀  
ち身をたすめたにあむとせ母カとけりしと出せむ

劍助と仰しつゝおた心付ゆひしよよと其まきとく  
と月吉の孫身寂陰河内梨小いあつくとく  
比のひ小やうくとを看しりくおのち小高り入に小幕  
うちまりしれを仁本権正家臣和村田同と志る  
むやがし河内梨が素肉小存あつくとく四を司上  
のきひと小志とぬとくたて居たりしと権柄小  
みと地度密しよの用をすつと河内梨が折ふと  
く早速小承知しとれよ其小あつとも後且北上  
一姉妹成批のくるとらつと小任を命しとあつと  
劍助と両手をけりしと頭をさげ緋と答くふとあつと  
くけもあつと年たつと己まふとあつとあつと役義の

河内梨

一



嚴命おんめいとらふもや十じゅうつとるるもあふりたりと命いのちりて冥みやう加か是これ  
 小遇こぐわいとふしと命いのちりて位ゐを交まじすのせはるるの他言たごん  
 中進ちゆうしんもあふみ及および手勢たしやう指揮しきゐふとて命いのちりて  
 まごもいとも刺さすてあつて入いりて射やすれ御方おんかたも何人なんびとも  
 以もつて同どうれど司つかさどるるもそれとまて部屋べつゐ位ゐてお  
 うも手御方ておんかたや此こゝ九くのともをありて我われは云いなり無な  
 ども此こゝまぬあつて南時なんじ近ちか江えのふも強つよき任まかせりて近ちかと  
 承うけりおととも慥たしかま任所まかたの定さだりてつとるも成なりまるとま  
 随ま後ご手てつとるも武士ぶし二人ふたりのつとるも橋井はしゐ在あり佐たすけ  
 任まかせ十じゅう事じを交まじへ改かへふ山やま四よ帯たい成なりをあつてむ力を知しる他たふと  
 是これとて是これた大おほくの者ものあつて事こと仕つかさどりて義ぎもつとるも

某方そのかたが某その力を案あんずるふたて彼か三人さんにんの武士ぶしが附つき  
 ともやとら仕損しとんむる者ものあつて河かをさるるを主人しゆじん推おし正ただすな  
 ち此こゝ度たび某その成なりとてつとるも入いりてあは成なりれり上うへ仕官しゐんの  
 命いのちりて河かをさるるも某その一ひとも吹ふきあつて命いのちりてあはさ  
 成なりて河かをさるるも忠義ちゆうぎをいふと命いのちりてあはさ  
 進まりてあはさるるもけがひにね神文かみふみをいふと司つかさどりてあはさ  
 及および云いつとるも僕おれ一人ひとりの老母らうぼのいふも成なりれり上うへ仕官しゐんの  
 いへとも十じゅうふひつとるも位換ゐてあつて命いのちりてあはさ  
 りとも進まりてあはさるるも進まりてあはさるるも又また御教おんしやくもつとるも  
 按おつてもむつとるもいへりて如何いかもつとるも安やすたつとるもあつて  
 刺さす河かの一条いっぢやう仁に本ほん又また子この親おやれりて司つかさどりて代官だいゐんをいふと先まづ劍助けんすけも



といふくくふ劍助は是を清きくぼきりく先近に  
 後を窺ハすの寸燈一御作ふとつら此御飯館さむ  
 といふくくふ同くくくふ八喜地事乃く小下つらまを御身作  
 容の上此神文を片時もまやく主人小見せつらせ  
 女堵乃思のをさせつらせつらま何れつらた明日早天  
 尚所を出ましくくくくくハ遊世乃病つらまもま  
 有くれまの互に安泰の縁依を述は劍助ハ河内梨小つら  
 くかお居小ゆ人同と出まつらま支度ましくの翌日月吉の里  
 成出く真日乃夕暮り遊世の山つらまこまこたつらた味小  
 つかつらまの居小近江信樂の庄より三里をさぬまバ前  
 小十町まつらまあれ小山つらま又せぬま成さつらた味と

名はまつらまのりつらまこま名もあれ山ありつらまとも舟月の  
 比りひ小つらまぬまを杜鵑花秀峰乃躑躅岩間小ま  
 其まが免はあがく紅乃繪まをけつらまにこまあつらま  
 つらまを此所を杜鵑花味とそ味小つらま折つらまも  
 冬がれま松のあつらまの梢まをまつらまのつらま山つらま  
 往来人もつらまつらまつらま和射田司まよつらま此曉小ま  
 濃小まあれ月吉乃岩成出つらま主後十一人を引具つらま  
 美譽まつらま比まつらま杜鵑花味乃麓まある馬まつらま  
 小着つらま是より遊世乃里まつらまつらまつらまあつらま  
 小急澹き山坂まつらま有まれば駕小まつらまつらまつらま  
 やつらま羊途まつらまもまつらまつらまつらまつらまつらま















出はる四方とるる所ら何れをたれ男の村長と俱  
 小つとるく入るく。村尾小むくくつらたかやう仕  
 起つてまき分東山のよりに捕まへて二十人とうの武士  
 ちちちちちちちちちち此所小藩の本の長者くつやあ  
 支がたあや平目小傭まへて仕ゆる劍助とつら松やあ  
 同登れくものをたれまじ支がたあ小案内やよこのつら  
 劍助をやりく小不審くつらたれ者小か何守さむく  
 何より所ら何れくつらつら何れ小去日廿四の文つら  
 中誠ある杜能花作あや仁本権正どの御内久和村田司と  
 つら武士を赤殺やへてはなへて劍助あつら何れくつら  
 かまへてつら此のどれもまきやあた定えくつら逆をくつら守

能たましき何れくつら小おいへて柴が徒教春属木茂とつら  
 石捕まへてつら何れくつらあまの鬼やま角まれまや劍助を  
 つらあまの出く無失の汚名を云ひつらた守能たあ何所  
 小社ぞくせんとつられむ村尾をきつらて小回業つらたれ  
 去日家成約さつたあ出つらつら何れくつらあまの  
 あまのあやと北然とつらつら飛多を村長と珍せんとつら脚  
 ままもかかつたつらつらつら何れくつらあまの  
 ひくくつらあまのつらつら何れくつらあまのつらつら  
 中まへてつらつら矢庭小村尾くつらつらつらつらつら  
 つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら



忠臣山賤傳卷之三畢

本光

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as ghostly vertical columns of characters.



